

脳神経外科・脳内血管治療科 スタッフ

医 師：9名（後期3名含む）
指導医：5名



Hiroshima City Hospital, Department of Neurosurgery

広島市立広島市民病院

〒730-8518

広島県広島市中区基町7番33号

電話番号: 082-221-2291(代表)

FAX 番号: 082-223-5514(代表)

<http://www.city-hosp.naka.hiroshima.jp/>

《病院見学等問合せ先》

事務室総務課人事係(研修管理委員会) 有馬・近藤・長谷川
E-mail: hiro-kensyu@hcho.jp

～ 交通アクセス ～

【電車】

- JR 広島駅（山陽本線）方面から
広島電鉄 2系統宮島線 約12分 紙屋町東下車
徒歩 約7分
- JR 横川駅（山陽本線）方面から
広島電鉄 7系統 約13分 紙屋町西下車
徒歩 約9分

【バス】

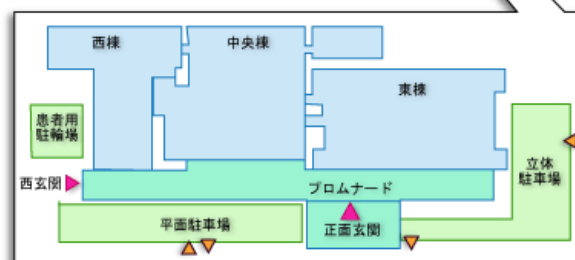
- バスセンター下車 徒歩 約7分

【アストラム】

- 県庁前下車 地下道より直通

【飛行機】

- 広島空港→バスセンターまでバスで約50分位



2020年度専攻医志望の皆様へ

広島市立広島市民病院

脳神経外科・脳血管内治療科

のご案内

当院は、以下の基幹型専門研修プログラムの連携施設です。

専門研修プログラム名

岡山大学大学院脳神経外科専門研修プログラム



最高の仲間と、
最高の場所で、
最高の研修を！

地方独立行政法人 広島市立病院機構
広島市立広島市民病院
Hiroshima City Hiroshima Citizens Hospital

脳神経外科コース志望のみなさんへ

脳神経外科・脳血管内治療科
主任部長 廣常信之
e-mail: hiro.ns@nifty.com

年間の入院患者数は急性期の症例を中心に約 1000 例あり、手術件数は年間 400 件を超え、非常に忙しい診療科であると自負している。救急患者への対応は当直、当番により 24 時間体制で取り組んでおり、救急外来、緊急入院、検査、治療と一貫した診療を行っている。そのため脳神経外科は内科、外科などと同じく基本診療科であり、専門医制度においてもいわゆる二階建てではなく、ストレートに脳神経外科後期研修が開始され仕組みである。対象疾患は脳血管救急疾患（脳卒中）を中心に、脳腫瘍、神経外傷、小児脳神経外科など多岐にわたる。治療法に関しても、基本的な開頭手術はもちろん、低侵襲治療である血管内治療、神経内視鏡手術など各分野の専門医、指導医が揃っていることも当科の特徴であり、新しい分野に興味を持って積極的に挑戦していくことを期待している。学会発表も活発に行っており、学術活動も重要な研修内容の一つと考えている。

プログラムの概要

当院での主要疾患である急性期脳血管障害、脳腫瘍などを中心に広く脳神経外科疾患を経験し、その診断から治療まで幅広く学ぶコースである。患者は新生児から高齢者まで各年齢層に渡り、カバーする疾患領域は広く、それぞれにサブスペシャリティを有するが、当科でも脳神経外科専門医のみならず、脳卒中学会専門医、脳神経血管内治療学会専門医、神経内視鏡学会技術認定医などの取得も可能なコースである。近々、専門医機構が認定する新専門医制度が開始される予定であるが、脳神経外科ではいち早く基幹施設を中心に複数の連携施設を合わせた多様な病院群からなる研修プログラムに移行しており、当科は岡山大学を基幹施設とする専門医研修プログラムの連携施設となっている。また関連施設として他大学プログラムにも参加可能なシステムである。施設ごとに得意な分野が異なるが、病院群での研修を行うことで満遍なく各種疾患が経験できるようになっている。

プログラムの特徴

脳神経外科後期研修の研修期間は 3 年と決められており、岡山大学のプログラムでは 1 年の基幹施設での研修と連携施設での 2 年の研修が予定されている。後期研修を当院で開始した場合は、最初の 2 年の研修を当院で行い、最後の 1 年を大学病院で行う。座学も重要であることは当然であるが、当科での研修の特徴は”まず体験・経験する”ことである。最初から全ての手技を行うことは無理であるが、少しずつ個々の研修医のできることを確認しながら、可能

な範囲でチャンスが与えられ、課題がこなされればステップアップするという方法を取っている。これには手術、検査の手技に限らず、患者を主治医として担当し、IC や患者、家族とのコミュニケーションなどを直に体験して学ぶことを重視している。手術手技に関しては、各種講習会への参加、cadaver dissection などの機会も積極的に提案・案内し、また院内でも実体顕微鏡を用いた microsurgery 手技のトレーニング設備を用意し、hands-on 講習会も企画実施している。救急患者が多いこともあり、時間外、夜間の対応に関しても、基本は当直・当番制であるが、可能な限り現場に参加することを原則とし、”脳外科三昧”の時間となるようにしている。

他科研修

当院では後期研修医はすべての診療科で、原則 3 ヶ月の救急科 (ER) での研修が必修となっている。当院には脳神経内科もあり、当科と合同で脳血管障害治療に当たっているため、神経救急を中心に神経疾患治療の経験も可能である。

週間スケジュール

- 1) 病院は週休 2 日であり、通常の業務は月曜から金曜までの 5 日間であるが、先に述べたように救急疾患を多く扱う当科では当番制を中心に夜間、休日の診療も重要な仕事となっている。
- 2) 外来も当科では毎日あり、基本的には 2 診体制でありスタッフ Dr を中心に外来枠を持って診療にあたっている。しかし、研修医も受け持ち患者の外来フォローアップなどのために週 1 枠（主に午後枠）が外来再診枠として与えられるよう配慮している。
- 3) 研修医の重要な仕事として急患の初期対応業務があり、曜日を決めて研修医を中心に 1st call, 2nd call 制を引いている。
- 4) 当科では特に決まった検査日、手術日はなく、毎日交代で実施されている。
- 5) 手術は予定予約枠で管理されるが、急患の多いしかも本当の意味で緊急性の高い疾患を扱う当科では、手術症例も半分はいわゆる緊急手術であり、24 時間、365 日対応している。
- 6) 当直、当番については、当院救命救急センターの脳血管部門として、脳神経外科と脳神経内科のいずれかの科の医師 1 名が毎日当直している。概ね 6 割が脳神経外科当直である。また毎日、当直者を含めて脳神経外科で 2 名の当番制を引き、基本的な治療ができるようにしている。また虚血性脳血管障害に対する超急性期血行再建である機械的血栓除去には超緊急での血管内治療が必要でこうした治療に対しても 24 時間体制で取り組んでいる。
- 7) 基本は主治医制であるが、研修医には指導医、上級医が共同して担当するように決めている。
- 8) 外来診療以外では、月曜に総回診、月曜、水曜、金曜に詳読会、症例検討会などを定期的実施している他、脳神経内科とは月例で合同カンファレンスを開催している。

修得できる専門医資格

日本脳神経外科学会専門医
日本脳神経血管内治療学会専門医
日本脳卒中学会専門医
日本神経内視鏡学会技術認定医

～～ 脳神経外科・脳血管内治療科 ライブラリー ～～

病床数 43 床
外来患者数 48 名/日
実績数（平成 27 年度）
入院患者数 :941 例
→受け持ち可能症例数は研修医一人当たり約 400 例
手術件数 :402 例 (NCD 登録データから)
開頭術を中心とした全身麻酔手術 222 例
→研修医一人当たり 100 例
穿頭術を中心とした局所麻酔手術 62 例
→研修医一人当たり 40 例
血管内治療 117 例
→研修医一人当たり 50 例
t-PA 実施数 14 例

広島市民病院 脳神経外科・脳血管内治療科 手術件数年次推移

	H23/2011	H24/2012	H25/2013	H26/2014	H27/2015
入院患者数(DPC)	934	937	877	1029	941
手術件数(内 血管内)	378 (78)	403 (83)	391 (93)	390 (106)	402 (117)
脳腫瘍	37	50	47	56	65
脳動脈瘤 (clip/coil)	94 (54/40)	86 (54/32)	100 (57/42)	86 (42/44)	84 (35/49)
血行再建術					
anastomosis	8	12	15	14	10
CEA	7	4	1	5	12
CAS	22	34	30	33	23
機械的血栓回収		3	2	5	17
慢性硬膜下血腫	59	52	45	58	46
水頭症 (シャント術など)	71	59	44	39	47
神経内視鏡手術	21	41	39	24	31
t-PA	9	13	8	12	14

	月	火	水	木	金	土日
朝			カンファレンス・連絡会		抄読会	当直 当番体制
午前	外来 手術 検査	外来 手術 検査	外来 手術 検査	外来 手術 検査	外来 手術 検査	
午後	外来 手術 検査 総回診	外来 手術 検査	外来 手術 検査	外来 手術 検査	外来 手術 検査	
夕方	カンファレンス					